

特43

592

アイヌ図書

第一

フレデリック・スタール撰

アイヌ謎集

256  
289

027275-000-1

特43-592

アイヌ謎集

フレデリック・スタール/著

M44

ADJ-0003

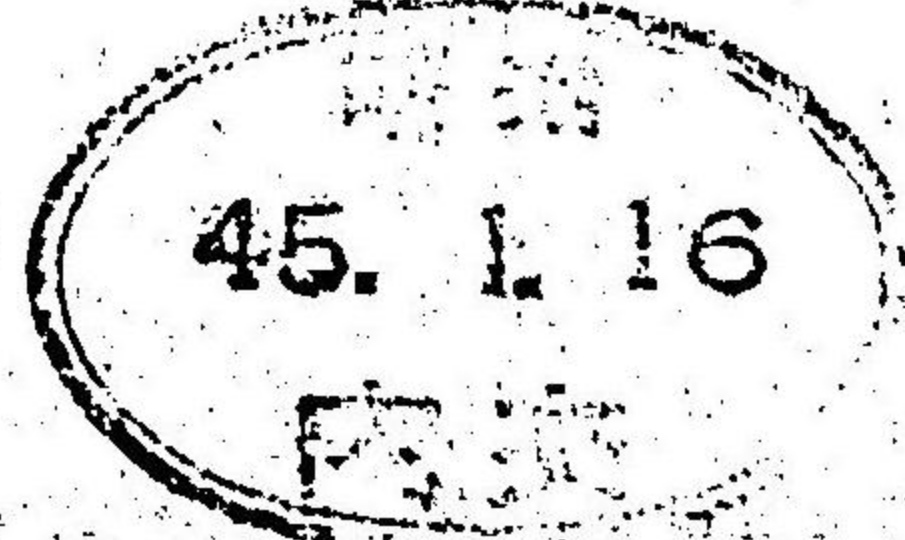


特43  
592

INTRODUCTION

In 1904, in the book *The Ainu Group at the Saint Louis Exposition*, I mention the fact that many unpublished Japanese manuscripts relating to the Ainu are in existence. I suggested that some of them at least ought to be printed. I now propose to bring together a series of small books to which the name of *The Ainu Library* will be collectively applied and which will consist of original, unpublished works dealing with some phase of Ainu life, customs or thought. These works will be, for the most part or entirely, by Japanese writers. Two editions, one as prepared by the author in Japanese, the other in English translation, will be printed. The series as a whole should be of interest to the ethnographer. No considerable sale of the volumes is expected; but they will be offered for sale; and it is hoped that enough may be realized to assist in continuing the work of publication. In any event, the Ainu Library will be widely distributed to Museums and Libraries, where it will be accessible to those interested.

The volume now published treats of *Ainu Riddles* and is written by "One who was Hidden in the Hokkaido." The author, Jenichiro Oyabe, has lived and worked for years among the Ainu of Yezo and knows them as few do. The Riddles themselves are simple but form a genuine contribution to our knowledge of this interesting people.



Riddles like proverbs seem to be common to all peoples. We find them among ancients as well as among moderns, in all stages of culture. The ancient Jews, the people of India, the old Greeks and Romans, all had riddles; the warlike populations of Central Africa, the Eskimo of the far north, the islanders of the southern sea, all delight in propounding conundrums to test the wit of the questioned and the ingenuity of the questioner. Everywhere such play throws some light upon modes of thought and forms of expression.

FREDERICK STARR.

Tokio, December 11, 1911.

アイヌ謎集緒言

一本編納ムル處ノ謎スベテ七十三題一問ヨリ五十問マテ  
 並ニ最後ノ七十三問ハ十勝アイヌヨリ之レヲ得他ハ悉  
 ク膽振アイヌヨリ之レヲ得タリ而シテ五十一問ヨリ六  
 十三問マテハ白老アイヌ六十四問ヨリ七十一問マデハ  
 有珠アイヌノモノニ屬ス  
 一學術上ノ參考ニ重ヲ置キタルガ故ニ專事實ヲ事實トシ  
 聊野卑ニ流ルルガ如キモノヲモットメテ拾集セルハ止  
 ムヲ得ザルニ出ヅ識者之レヲ諒セヨ  
 一十勝膽振兩アイヌハ其ノ言語大ニ異リ隨ヒテ同一物ニ

於ケル謎モソノ形式一定セズ故ニ繁ヲ厭ハズ重出セリ  
 一本編ハ特ニ娛樂トシテ妙ナルノミナラズ悉ク會話體ヲ  
 具フルヲ以テアイヌ語ノ比較文法ノ研究上裨益アリト  
 信ズ故ニ内容ノ正確ト寫聲トニ注意シ最嚴密ナル校訂  
 ナ經タリ  
 一譯語ハ勉メテ平明ナラシメシト雖トモ往々隔靴搔痒ノ  
 感ナキ能ハズソハ適當スベキ文字ヲ得ザレバナリ又ア  
 イヌノ發音上トノ如キハ吾ガト音ニアラデ英語 (oday) ノ  
 〇ト發音ヲ同クスヨリテト音ニ區別センガ爲ニトノ符  
 標ヲ用キタリ  
 一シラカセシト並ニ語句品詞又延約ハ吾ガ假字ノ莖ヲ寫シ

得ル處ニアラスニ他日更ニ羅馬字等ヨリ英譯庶モ  
 加ヘテ大成セムコトヲ期ス  
 一北海道本嶋ハ勿論千嶋樺太各地アイヌノ謎ナホ許多ナ  
 ルベシ本編僅ニソノ數部落ノモノヲ網羅セシニ過ギズ  
 噫復誰カ拾集ノ勞ヲ敢テスルモノゾ  
 一卷首ノ挿畫ハ吾ガ教弟森久吉(十三年七箇月)ノ筆ニ成リ  
 同砂山力太郎(十二年四箇月)全編淨書ノ任ニ當ル併セ録  
 シテ勞ヲ謝ス

明治四十二年二月八日

編者誌

アイヌ謎集

一、問  
二、問  
三、問  
四、問  
五、問  
六、問  
七、問  
八、問  
九、問  
十、問

アイヌ謎集

一、問  
二、問

川ノ縁ニカムイサマノヌサガアルノハナニ

答  
マカヨ

フキノタウ

註  
ヌサハ木幣削懸ノ一種ナリ露茎ノ冠毛ノ状サナ

ガラ木幣ニ似タリ

二、問  
トシリナロロボクダボンスアツテベ

木ノ根ノ下ニ小鍋ヲサゲタヤウナモノ

答  
スポン

アカハツ

註 スハ鍋ユレトスブシノストヲモジリタルナリ

三、問 イネナキリコロワアツシワアンベ

四本足モツテ動カナイデナルモノ

答 プー

モノオキ

註 プーハアイヌノ倉庫其制四本ノ柱ヲ土ニ掘リ立

テ床ヲ地上ヨリ高ク支ヘタリコレ鼠害ヲ防ガム

ガタメナリ

四、問 ナキリサツクワコタンノオケレベ

足ガナクテアナコナマハルモノ

答 ナツア

舟

五、問 アラケボンアラケボロワウヨリウカスエース

エー

ナヒサイモノトオホキナモノトガ橋ノ上ニ行ッ

テユスツタラドナラガサキニ落ツルカ

答 カムイナナナネワタイキ

熊ト蚤

註 コノ謎ハ兩者ノイヅレカサキニオツルカトイフ

ガ問ノ真意ニアラズシテ兩者ノ名ナイハシメム

トスルガ目的ナリ

六、問

ウオツタヤタウユレユロベ

川ノ中ニト陸ニト似タ名ノアルモノ

答

イナヤンニウイナヤリ

鱒ザル

七、問

ナヤロカイイシヤムシユキカイイシヤムテケカ

イイシヤムナキリカイイシヤムホニトツキセー

ワアンベ

口モナク目モナク手モナク足モナク腹膨レテナ

ルモノ

答

ノツク

卵

八、問

ルーシヤムウーシヤオツカラ

道ノワキニ足アトツクモノ

答

クワルエ

杖ノ跡

九、問

ヌプリユトロペカオツプニンバツプ

山ノヘリテ銚ヲヒツパツテ歩クモノハナニカ

答

エシヤマン

カハナソ

註

昔河獺ガ英雄シヤマイグルニ山奥ヨリ逐出サレ

ソノ尾ヲヒキズリナガラ落延ビタリキトノ神話

アリコノ謎ハソレニ因ミテオツプ(尾)ヲオブ(銚)ニ

イヒナノラヒシナリ

十、問

オノンアリキウタラネヤツカイコシドシツム  
ドユカラキタモノデモタスケルモノ

答

ニヤーシナル

厠

十一、問

リツタネワラタウコロコロベ

上ト下トニ同名ノモノアリナニカ

答

ニシニス

空白

十二、問

シヨーバタネワナシヨツタウコロコロベ

外ト内トニ同名ノモノアリナニカ

答

ヌサルサ

木幣 盃

註

ヌサハ神ニ捧グル削懸イナオトモ稱スルサハ葦

ニテ編ミタル盃又ハ膳ノ用ニ充ツルモノ

十三、問

オマンアヒンネニトモムオツマツプ

ハセテイツテ木ニウナツカルモノ

答

ムカラ

斧

十四、問

エキムンヤラシヤラニツプエホドイバベ

山ニヤブレタル籠ヲ呼ブモノ

答

プイ



註 シヤラニツプハ俗ニシカリトイフモノニ當ル謂

ハブイガシツラニツプヲ携フル人ニ採ラレムコ  
トヲ待ツトナリ

十五、問

アルカシコロベ

片屋根ヲモツ小舎

答

キサラ

耳

十六、問

エアネナツケナツケ

ホソイカラボツボツオツル

答

バシユイ

箸

註

箸ニイクバシユイトイベバシユイトノ別アリ前  
者ハ飲箸即酒ヲ飲ムトキ匙揚ニ用井後者ハ食箸  
即食物ヲ挾ムニ用井ルユナルバシユイハ後者  
ニ屬ス

十七、問

ケナシノシケタフレテバエバウシワアンベ

林ノマン中ニ赤イツギカブツテナルモノ

答

ラウラウ

蛇ノダイマツ

十八、問

ベツトモドエウハシコエキツビ

川ノ兩側ニ居テ相戦フモノ

答 シュキラブ

マミゲ

註

マミゲノシバタタクサマナ譬諭シエテ妙ナリハ  
シトハ築ノ類ニテウハシ(戦)ニイヒカケ流ノセセ  
ラグナイヒルナリ

十九、問

ベツノシケタウルイルイベ

川ノ真中ニ挨拶シテナルモノ

答

ウライニ

杭

註

ウライニトハ川ノ中ニ流ニ從ヒテ交叉セル築杭  
ノ類ソノ狀アイヌガウライト稱スル禮ノ際相擁

二十、問

シタルニ髣髴タルガ故ニイヒモシレリ

トケシニワアンテツケシリクンネコロシニエカ

シインギノモンライケワアンベ

ヒルハ休ンデヨルニナレバヤスマナイデ仕事ス

ルモノ

答

タツスネ

トモシビ

註

タツハ樺ノ皮スネハ火アイヌハ昔時樺ノ皮ヲ細  
ク裂キ更ニヨリテ火ヲトモシタリ

二十一、問

エソンオマンユロナソレアンアフンユロエソン  
アンワアンベ

ソトニ行クトウナニムイテ井ルウナニ入ルトソ  
トニ向クモノ

答 ニヨロボキケ

フクロハギ

二十三問

ユワンアムコロワコタノオケレベ

六ツノ瓜モツテ國マハルモノ

答 シドケレ

ツマゴ

註 シドケレハオヒヨウ又ハ葡萄ノ皮ニテ造ル夏季

山ニ穿ツソノ制六ツノ瓜ノ如キ瘤アリ

二十三問

ウオロベカアベケシシエシエ

川ノ中デ燃木尻ヲ動カスヤウナモノハナニカ

答 イシルチユブ

鮭又ハ鱒ノ古キモノ

註 鱗剥落シ鱗損シテ一見モエキシリノソレニ似タ

ルモイヒ得テ妙

二十四問

レタラセタウユイキツピ

白犬ノ喧嘩

答 齒ニマキ

噛ムコト

註 上齒ト下齒トノ噛ミアフヲ譬ヒ得テ妙ヲ極ムニ

マキトハ齒ナリ

二十五問

ナセオカリウオアノシバベ  
家ノマハリオヒクラシテナルモノ

答 イサマヌブ

横木

二十六問

アフンツッブオカヌカルベ  
入日ヲ後カラ見テナルモノ

答 サラキイブイ

葦ノ穂

註

葦ノ穂ヲ擬人シタル面白シ月ニ尾花モ適用セハ  
一シホナラム

二十七問

ラムマノイツキエウセセカベ

イツモセナカアブリシテ井ルモノ

答 イヌンベ

爐縁

二十八問

ボンヌブリシウドルオマレウヌカラカイシエ  
ンキベ

小山ヲ隔テテイツモアハヌモノハナニカ

答 シユキ

目

註 ボンヌプリハ鼻ナイヒルニテ譬諭ノ奥妙賞スル  
シアイヌノ謎中五體ニ屬スルモノ殊ニ奇抜ノ着  
眼アルニ服ス殊ニ生レテカラ死ヌルマデ一生涯

相隣シテ然モ相見ザルモノトハヨクモ言ヒ得タル哉

二十九問

ボンヌプリオイカウテレケレベ  
小山ナケナ・ンケ・ンハネルモノ

答

ピユツ  
キナチ織ルオモリ石

註

キナハムシロ

三十問

ケナシノシケタフレコンケエパウシクル  
林ノ真中ニ赤イ帽ナイタタイテナルヒト

答

ラウラウ

蛇ノダイマツ

註 十七問ト大同小異

三十一問

ウチツタネワヤタウコレコロベ  
川ノ中ト陸トニ同ジ名モツテナルモノ

答

オスネワホス

魚ノ雌ト脚胖

註

日本語魚ノ雌ガアイヌ語ノオスニ當ル滑稽

三十二問

ベツタサタハウロシキツピ  
川ノ流ニ向ツテ聲ヲダテテ上ルモノ

答

コンル

氷

註

謂ハ河川ハ下流海ノ境ヨリ次第ニ氷鎖シテハ自

ラ破レ破レテハ次第ニ鎖シテ上流ニ及ブモノナ  
リ

三十三問

ドイマエツクルハンケエツクルコシドサベ  
遠イ處カラ來タ人デモ近イ處カラ來タ人デモソ  
ノオカゲテタスカルモノ

答 アシンナセイ

便所

註 十問参照

三十四問

ランマノエトセセカツペ  
イツモハナアブツテナルモノ

答 スニ

カギ

註 スニ又スワットモイフ

三十五問

ヌアカトブナサンカトブナ  
野原デドンドン機デドンドン

答 ニセウネワゼバケアキキフム

柏ノ實ト魚ノ頭叩ク音

註

柏原ニ風タナテ實ノ落ツルト機トテ流ニ止ナカ  
ケタル魚待機敷ニ引キアゲシ潑漉ノ魚ヲ頭ヲウ  
ナテ弱ラスソノ音ト相似タルヲ對ニシテ面白ク

ソレトイヒマハセルナリ

三十六問

ペテトユエンカニカラベ

川ノ源デ金ヲ造ルモノ

答 カバナリエネアエヒ

驚ノユト

註 意義未詳

三十七問

チノンエツクルネヤツカイオヌカラヘ

ドユカラキダ人ノデモシダカラノゾクモノ

答 トンチカマニエチレアンヒ

シキ井ノユト

三十八問

オノンエツクルチヤツカイシエンカクステ

ドユカラ來タ人デモカカゲテハヒルモノ

答 アバオロツス

戸口ニサゲタルスダレ

註 アバオロツスハキト稱スル草ニテ編ム

三十九問

ケナシノシケダボロルブシスムダクエクハラア

ンベエ

木原ニ凍ミタ鹿ノ油ノ玉ナクハヒアタツテナル

モノチアテヨ

答 ニニシユツバカウバシオ

木ノ根株ニ雪フリ積ツテアルユト

四十問

ニシバエネエンクルエネランマノオヌカラカア

ンベエ

金持デモ貧乏デモイツモ下カラノゾキミルモノ

アテヨ

答 トンナカマニ

シキ井

註 三十七問参照

四十二問 レヌルミワホツケワアンベエ

山ニ熊ノ皮ヲ着テネテナルモノハナニカ

答 クンネシ

黒屎

ユレコソ言ハヌガ花熊ノ皮モ強テ綻バセバ鼻ヲ

覆フベシ

四十三問 ユワンヌプリオエカインガラメ

六ツノ山ヲ越シテ見テナルモノハナニカ

答 ツツアカムイ

日

四十三問 ユワンヌプリオボシ・オプニンバツメ

六ツノ山ヲ銚ヲヒキズツテトホルモノハナニ

答 エシヤマン

カハチソ

註 十問参照

四十四問 ケナシノシケタレタラペイクバワアンメ

林ニ白イモクハヒテルモノ

答 ニシユツバ



木ノ根株

註 三十九問参照

四十五問 ベッオシケタスネアニワオユブベ

川ノ中ニアカシツケテハセルモノ

答 イシルナエツプ

鮭又ハ鱒ノ古キモノ

註 イシルナエツプハホツナヤレノユト二十三問參

照

四十六問 クスリオボイスシレボツナドカブナ

薬ヲハトツタ小鍋ガソユニアルユコニハ乳ガア

ル

答 クスリ ドカブナ

鋤路 十勝

註 兩地名ヲソノ類似ノ物ト名トニナツラヒテ暗ニ

各ノ位置ヲ示セル面白シ

四十七問 レネナキリユロワユダノオケレベ

一本足レテ世界ヲワタルモノ

答 クワ

ツエ

四十八問 ポンヌブリシウコトロオマレワウヌカラエラム

シカレベ

小山ヲヘタテタイキアツタユトハナイモノ

答 シユツキ

目

註 二十八問参照

四十九問 ヲフイヌブリカシケタレニアシワアンベ

焼山ノ上ニ三本木タツテアルモノ

答 スナキリ

鍋ノ足

五十問 ヌフンヌブリオボシハエアヌベ

六ツノ山ヲコシテコエノキユルモノ

答 マウソレカムイ

鳥ノ名

五十一問 ナセオカリアシワアンベ

家ノマハリニ立ッテナルモノ

答 エクシベ

柱

五十二問 アドイカタレイワイツキベ

海ノ上ヲハツテクルモノ

答 ナユブ

舟

五十三問 オマンイネイニトマウムベ

行ッテ木ニウナツカルモノ

答 ムカラ

斧

註 十三問参照

五十四問 ナセオカリウオワノシパベ

家ノメグリニ走セルモノ

答 サツクマ

横木

註 二十五問参照

五十五問 ニカタアソワナタボドイカルベ

木ノ上ニ井テ鉈ヲ呼ブモノ

答 シケレベ

シユロノ實

註 謂ハ人ニ採ラレムコトヲ願フトナリ

五十六問 ヲッオシケダスネユウアツブカシベネブネヤ

川ノ中ニ火ヲタイキクルモノハナシデスカ

答 スブン

ウグイ

註 二問及二十三問参照

五十七問 オマンアイネエニドムシバネブネヤ

ムカフニ行ツテ打ナツカルモノハナシデスカ

答 ムカラ

斧

註 十三問及五十三問参照

五十八問

オマンアイネシドリッブネッブネヤ

ムカフニイッテ敷カレルモノハナニデスカ

答

タラ

荷フ繩

五十九問

ニカタアンワナタホドイカルベネッブネヤ

木ノ上ニ井テ鉈ヲ呼ブモノハ何デスカ

答

シケレベ

シコロノ實

註

五十五問参照

六十問

キムタシネチクニバシバシウシベネブネヤ

山ニアル一本ノ燃木尻ハナニデスカ

答

ヘベリ

熊

六十一問

ペッオシケタネブタカモイモイケコロサンベネ

ブネヤ

川ノ中ニナニカナガレナガラ動イテクルモノハ

ナニデスカ

答

カモイナエッブ

鮭

六十二問

キムタバヲキレウシワアンワトノオマンコキラ

ツブネブネヤ

山ニバカリ井テ邏卒イクトスグ逃ゲルモノハナ

ニデスカ

答 イツカブ

盜賊

註 問ノトノトハ答選卒ニ當ル昔時ノ警吏ノ稱

六十三問 ユワンコタンカマハエアヌツブ

六ツノ邑チユエテ向フニ聞ユルモノ

答 カツユク

杜鵑

六十四問 アトイアサマコシキトユコ

海ノソユチミテナルモノ

答 ヤー

網

六十五問 アトイアサマコアムノエ

海ノソユチツカマヒテ居ルモノ

答 カイテ

舟ノ碇

六十六問 ベツエエソロナシコダシダリキ

川ノ流レルトホリ泣イテ行ク

答 ヨイシユム

アブク

六十七問 タウイマエツクルハンケエツクルコアフン

近イトコロカラモ遠イトコロカラ來ル人ガ入ル

答 オソマツセ

便所

註 十問三十三問参照

六十八問 イタッセレツキレツキ

音ガバナバナスル

答 パルンベ

人ノ舌

六十九問 ユンルゾロヘカアベケシシユエシユエ

氷ノ下ヲ火ノツイタ木ヲフル

答 オシルシユ

ホツナヤレ鮭

註 二十三問四十五問参照

七十問 シキナツコロカイワンヌプリオカリ

メクラデ六ツモ山ヲメグル

答 テシマ

カンツキ

註 カンツキハカンシキノ轉ソノ制桑ノ木ニテ造リ

形ヒサユノ如ク雪ヲヨグニ穿ツ雪ニヌカルコト

ナシアイヌ獨得ノ創作品タリ

七十一問 フレセタクンネセタレンレン

赤犬黒犬ヲナメル

答 シユカネアベ

鍋ト火

註 鍋ノ尻ニタキ火ノアタルヲ形容シタル珍妙

七十三問 ペッオシケタスネアニワオユブベ

川ノ中ニアカシツケテハセルモノ

答 イシルケエツプ

ホツケヤレ

註 二十三問四十五問及六十九問參照

アイヌ謎集自跋

世界最古ノ遺民ニシテ吾ガ國土ノ先住種族タルアイヌガ  
學術研究上至貴至重タルハ更ニ言ヲ須タズ今ヤ僅々壹萬  
七千有餘人遠カラズシテ後ヲ絶タムトスルニ於テチヤソ  
ノ風俗言語口碑等ヲ録シテ國家後世ニ保存スベキハ吾ガ  
國民ノ義務ノ一端ナリト信ズ吾自ラ揣ラズ身ヲアイヌ救  
育ノ犠牲ニ供シテ日夜殆寸暇ナキヲ樂ム然モ此等ノ攻究  
ト趣味トハ寤寐モ忘ルル能ハズ見聞スル處ハ細大手記シ  
テ他日ノ研讃ニ供フ本編ヲ出スハ恰兒戲ニ類スト雖聊素  
志ノ萬一ヲ披瀝セシニ過キズ然モアイヌニ關スル著書古

來多シト雖トモ謎ノ書ハ本編ヲ以テ嚆矢トスベク且恐クハ彼等最後ノ紀念ナルベシ  
 吾渡道以來茲ニ四星霜親シクアイヌニ就キテ古事古言ノ拾集ニカム如何ニセム時勢ノ進運ハ彼等ヲ驅リテ遂ニ日木化セシメ殆彼此ノ區別ヲ存セシメザルニ到リ彼等固有ノ語ハ既ニ死語ニ垂トシ公然使用スルノ寧耻辱ナルガ如ク自覺セラレタルヲ是ニ於テカ日本語ニ慣レタル彼等ハソノ固有語ノ意義ヲサヘ辨ゼサルモノ多キハ怪ムニ足ラズ吾此ノ間ニ奔走シテ自ラ夷語ヲ使用シテ彼等ニ接シ終始研究ヲ遂ゲントスルノ餘或ハソノ家ニ在ルト野ニ在ルトヲ問ハズ老幼男女ヲ論ゼズ凡アイヌニシテ相見ル者ア

レバ必先諸種ノ問答ヲ試ムルヲ常トセリソノ極狂人視セラレ奇怪視セラレ嘲笑セラレアラユル辛酸ヲ嘗メテ漸ク一語ノ意義ヲ解シ一地名ヲ辨シ又ハ一古事ヲ斷ズルヲ得タリ甚シキハ發問意外ナルニ喫驚シ鑿索好ナルニ嫌惡ノ情ヲ醸シ再會語ルノ機ヲ失フニ至レリソノ困難名狀シ得ザルモノアリサレバ微々タル一冊子ヲ編スルダニ容易ノ業ニアラズ况ヤ不朽ノ遺著ヲヤ幸ニシテ吾ガ腹心ノアイヌ某々並ニ吾ガ親愛ナルアイヌ子弟若干名余ノ眞意ヲ解シ至誠以テ諸般ノ材料ヲ供シ研究ニ資スル處少シトセズ本編ノ成ル亦偶然ニアラズコレ吾ガ私ニ満足シ深ク感謝スル處ナリ夫レ書ハ宜シク時代人情ニ投ズルヲ要ス顧客



ノ多キハ以テ名聲ヲ博シ巨利ヲ占ムルヲ得ベケレバナリ  
本編ノ如キハモトヨリ知己ヲ千載ニ須ツモノ豈讀者ノ有  
無ヲ論ゼムヤ所感ヲ録シテ跋トス

明治四十二年紀元節

北海隱士

明治四十四年十二月廿七日印刷  
明治四十四年十二月三十日發行

著者兼  
發行者  
東京府大井町八百四十九番地  
小谷部全一郎

印刷者  
横濱市太田町五丁目八十七番地  
村岡平吉

發行所  
東京市京橋區南本郷町一番地  
鶴岡信治

印刷所  
横濱市山下町八十一番地  
福音印刷合資會社

256

289

